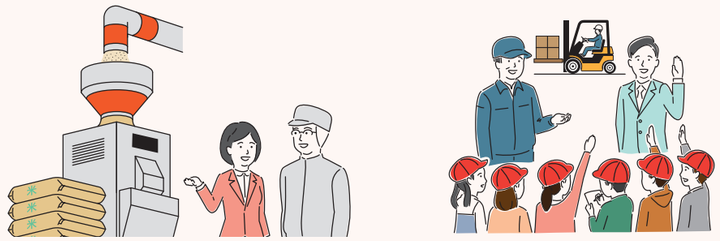
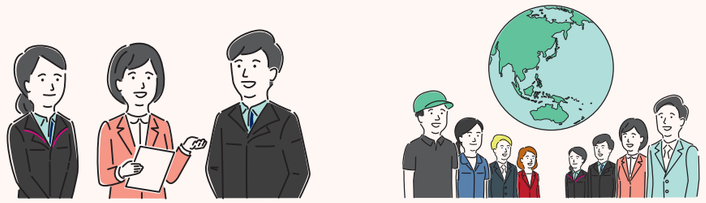


THREE HIGH ANNUAL REPORT

OMOU

2023



THREE HIGH
CO.,LTD. SINCE 1990

株式会社スリーハイ
THREE HIGH CO.,LTD.

所在地：〒224-0023 神奈川県横浜市都筑区東山田 4-42-16
TEL　：045-590-5561
FAX　：045-590-5571
MAIL　：pr@threehigh.co.jp

2024年5月発行
発行者: 株式会社スリーハイ
企画・制作協力:今尾江美子（ケイスリー株式会社）・臼井亮介（合同会社KESHIN）

OMOU 2023
ウェブ版はこちら →

この印刷物は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。

INDEX

代表あいさつ …… P.1

会社紹介 …… P.2

社名の由来 …… P.4

2023年活動まとめ …… P.5

スリーハイの「ステークホルダー経営」 …… P.6

— パートナー企業を、どこまでも想う …… P.8

— 地域を、どこまでも想う …… P.12

— 働く仲間を、どこまでも想う …… P.16

— 未来を、地球を、どこまでも想う …… P.20

SDGs達成貢献に向けた取り組み …… P.24

価値創造プロセス …… P.26

会社情報 …… P.28

財務情報（貸借対照表） …… P.30

表彰、認証・認定 …… P.32

リスクマネジメント …… P.32

第三者コメント …… P.33

※本レポートは、原則として2023年1月～2023年12月のデータを基に作成しています。

開かれた経営で、信頼を重ねていく。

スリーハイのアニュアルレポート「OMOU 2023」をここにお届けいたします。
はじめに、サステナビリティレポートとして発刊した「Sustainability Report 2021」から数え、3冊目となるレポートを発行できたことに感謝申し上げます。

2023年9月期の経営状況は、原油価格高騰により、エネルギー効率を高める断熱材をはじめとした製品の販売が好調で、売上高は過去最高の約4.4億円となりました。当社は直接的に「温める」産業用ヒーターを主力商品としていますが、「熱」に関わるトータルソリューション・カンパニーとして、断熱材・温度調節器など周辺製品も併せた解決策のご提案が評価された結果だと考えています。さらに、2023年3月には、スリーハイの事業可能性を評価していただき、東京中小企業投資育成株式会社から新たに1000万円の出資を受けたことも、大きな経営トピックになりました。

地球環境負荷軽減の取り組みでは、当社が電線を仕入れているパートナー企業と連携し、これまで廃棄していた使用済みプラスチック製ボビン（電線等を巻く筒）の再利用を開始しました。これにより、スリーハイではボビンの廃棄とそれに伴うコストの削減、パートナー企業では新たなボビンの仕入れ低減につながりました。これはパートナー企業の皆さまのご理解とご協力があったからこそ実現できたものです。

一方で、当社のCO_2排出量と段ボール購入費用は前年から増加しました。これらは生産量が増えたことが要因の一つですが、今後一層、地球環境負荷軽減に向けて製造業としてできることを検討すべきフェーズにあると認識しています。

昨年の「OMOU 2022」は、私たちが思った以上に「読みやすい」「分かりやすい」といった感想を頂きました。中でも、最も熱心に読んでくださったのは、スリーハイが地域活動でつながった学生でした。会社が目指す未来の方向性を誰よりも見つめているのは、これから未来に向かって歩む学生の皆さんだったのです。企業活動を通じて社会にどのように貢献していくか、若い世代ほど真剣に考えています。そして企業の社会貢献の側面は、これまでの会社案内や製品紹介パンフレットでは伝わりにくく、まさにアニュアルレポートでこそ伝わるものであることを、私たち自身が学びました。
コーポレートガバナンスの観点から、大企業だけでなく、中小企業も経営の透明性を高めていくことが求められる中、当社ができることは「中小企業版アニュアルレポート」の先駆者として、この「OMOU」を作り続けていくことではないかと考えています。「OMOU」を読んでいただいたことをきっかけに、財務・非財務情報の公開に取り組む中小企業がさらに増えることを願っています。

2024年は神奈川県外初の営業拠点となる札幌営業所を開設し、半導体業界を中心とした営業活動を強化していくほか、海外、特に東南アジアへの展開も積極的に進めていきます。これからも、当社は皆さまと共に歩み、本業を通じた社会・環境の課題解決に資する取り組みを一層推進してまいります。
今後のスリーハイに、どうぞご期待ください。

株式会社スリーハイ
代表取締役 男澤誠

経営理念（ミッション）

ものを想う。ひとを想う。

ものに魂を宿し、関わる人たちに想いを届けていく。
それが、私たちのミッションです。

ビジョン

世界中の「温めたい」に応えていく。

「熱の困りごと」を解決すること。
創業以来、一つ一つの「困りごと」を全力で解決し、お客さまが笑顔になる瞬間を、たくさん見てきました。
「熱の困りごと」は、世界中にある。その一つ一つを全力で解決し、世界中に笑顔を増やしたい。
それが、私たちのビジョンです。

バリュー

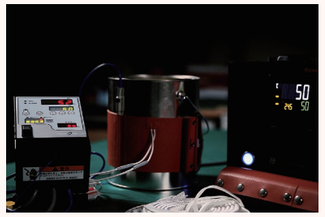
「温める」をつくること。

「ものづくり」を通じて、私たちと関係するすべての人たちを、どこまでも、温めていくこと。
取引先、地域、従業員、その家族。そこにつながる、たくさんの人たち。
みんなの心が温まる体験を、この手で、生み出していくこと。
それが、私たちのバリューです。

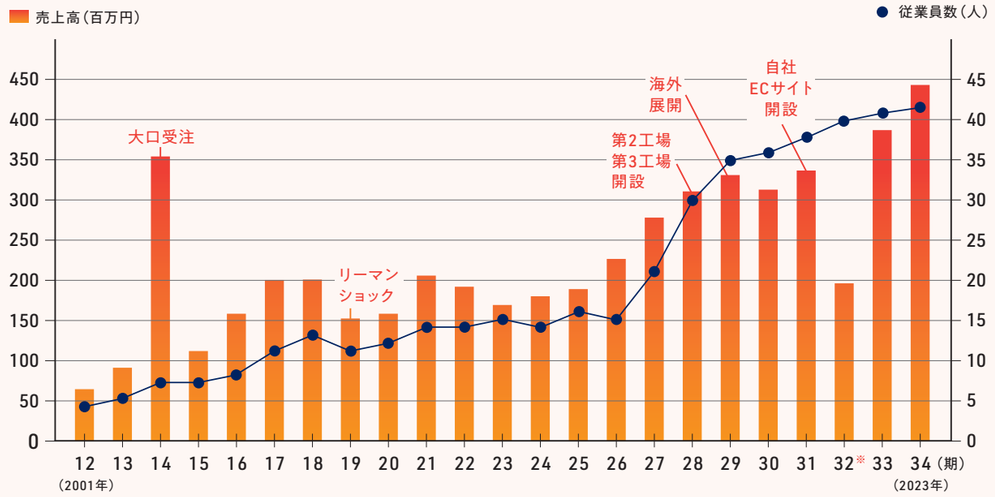
事業分野

社会のインフラを支える、ヒーターソリューションカンパニー

1990年の設立以来、産業用電気ヒーターの製造・販売を中心に事業を展開してきました。ヒーターと一言で言っても、シリコンラバーヒーター、ベルトヒーター、マントルヒーターなど様々です。お客さまの目的や用途に応じた最適なソリューションをご提案・ご提供しています。私たちは、製品を通して、お客さまの心を温める製品やサービスを提供したいと考えています。



売上高と従業員数の推移



※2021年に決算期を2月から9月に変更しました。このため32期は7カ月のみで算出しています。

社名の由来

Thee High（スリーハイ）という名前は、
High Technology、High Touch、High Fashion、
という3つのHighが由来です。

もの、ひと、社会。

どれが欠けても、当社は成り立ちません。
創業時に打ち立てた、この三本柱を時代に合わせて進化させながら、
これからも守り続けていきます。

HIGH TECH
more
GLOBAL

世界に通用する
日本ならではの
高い品質と技術力

HIGH TOUCH
more
HUMAN

もの・ひとを
温めることができる
人間味溢れるスタッフ

HIGH FASHION
more
SOCIETY

枠にとらわれない
新しい製造業をつくり
地域・社会を豊かに

2023年活動まとめ

2023年

1月

2月

2月 中小企業診断士の卵たちによる企業診断

中小企業基盤整備機構の派遣事業で、中小企業診断士養成講座を受講中の8人によるスリーハイの診断とその報告会が開かれました。報告会には全従業員が参加。客観的な視点で自社を見ることができ、会社の取り組みを見直す良い機会となりました。

3月

3月 資本金増資

東京中小企業投資育成株式会社から新たに1000万円の出資を受け、資本金が3000万円となりました。中小企業の弱点である財務基盤を強化し、成長への投資を加速させることが狙いです。（詳しくは31ページ）

4月 「OMOU2022」発行

スリーハイ初となるアニュアルレポート発行。中小企業の製造業でアニュアルレポートを出す例はまだまだ珍しく、多くの反響を頂きました!

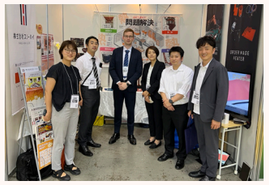
4月

5月

5月 「かながわSDGsパートナーミーティング」登壇

神奈川県の「かながわSDGsパートナー」に登録されているパートナー間の交流会に登壇。テーマである「SDGsゴール8 働きがいも経済成長も」についてお話ししました。

6月



6月 世界最大級の食品製造総合展「FOOMA JAPAN 2023」に初出展

これまで出展した食品業界向け展示会の中では最大規模の展示会。満を持しての出展に、多くのお客さまが足を運んでくださり、大盛況で終わりました。

7月

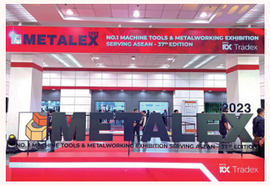
8月

8月 “東山田食堂&シェアごはん” 1周年記念「DENナイト」開催

2022年からスタートした“東山田食堂&シェアごはん”。おかげさまで1周年を迎えました。おいしい食材を提供してくださる地域の企業や農家の皆さまに感謝し、これからもフードコーディネーターのミナさんのおいしいご飯を楽しんでいただけるように頑張っていきます!（詳しくは15ページ）

9月

10月



11月 ASEAN最大級の金属加工機器および工作機械の展示会「METALEX 2023」出展

ここ数年、国内でニーズの高い「射出成型機用断熱ジャケット」。海外の展示会では初めてお披露目し、多くのお客さまの目に留まりました。（詳しくは21ページ）

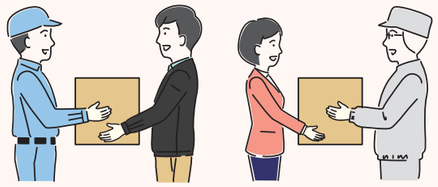
11月

12月

11月 神奈川県立綾瀬高等学校 第46期生「総合的な探究の時間」プログラム始動

2023年11月、神奈川県立綾瀬高等学校の第46期生（2年次・323人）を対象とした「総合的な探究の時間」では、NPO法人SoELaと連携し、生徒たちがスリーハイの経営課題解決に向けた施策を考え、優れた提案についてはスリーハイが実現に向けて検討する取り組みを始めました。プログラムには、当社社員も参加し、一緒に課題に取り組んでいます。

パートナー企業



パートナー企業を、どこまでも想う

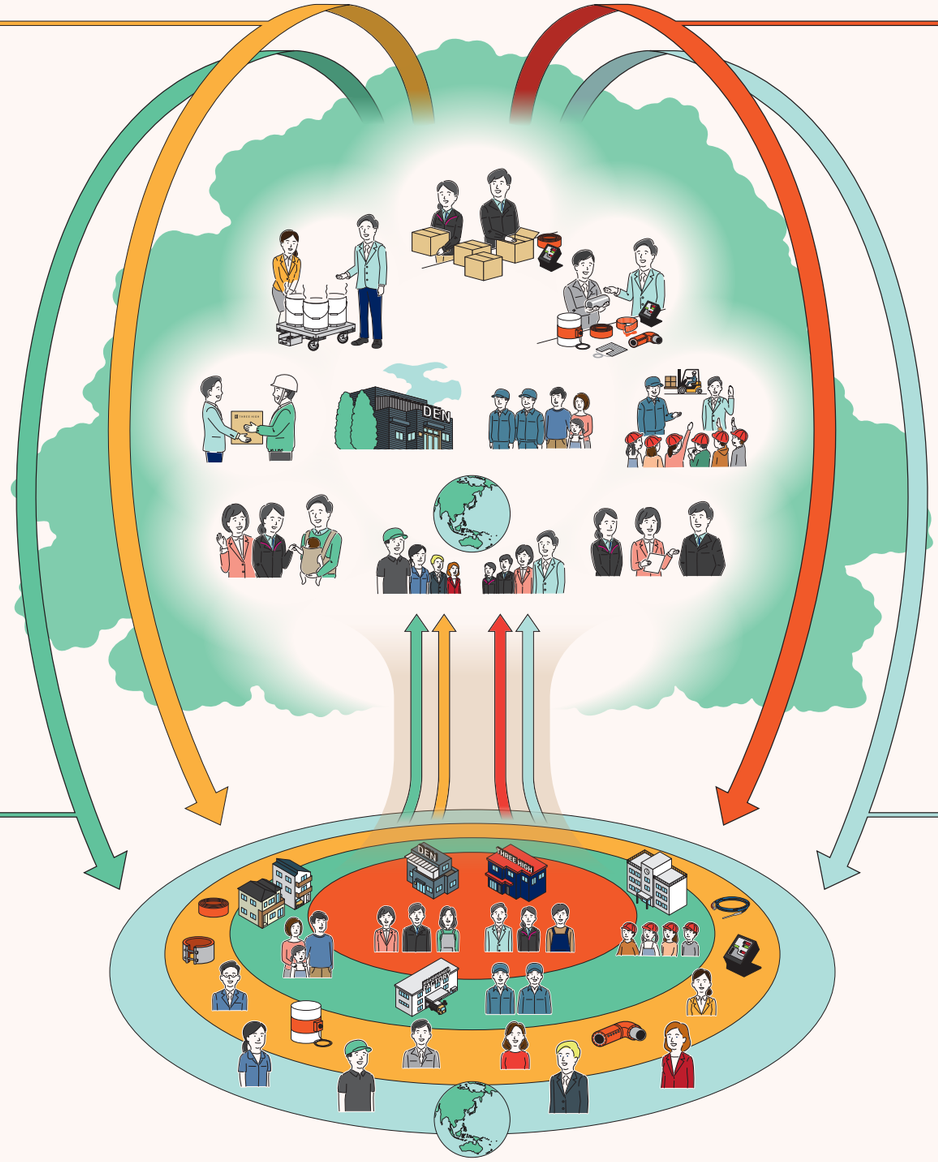
仕入れ先の想いを受け取り、お客さまへ渡していくこと、一つのヒーターには、たくさんの企業が関わっています。私たちの役割は、パートナー企業の想いをつなぐ架け橋になることだと考えています。

→ P.8-P.11

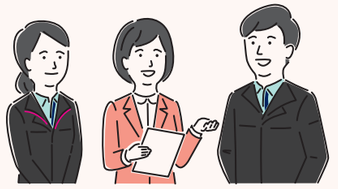
ステークホルダーを
その想いは、巡り巡って

私たちの事業は、あらゆるステークホルダーとの関係で成り立っています。
ステークホルダーと共に、良い事業をつくりたい。良い社会をつくりたい。
だからまず、ステークホルダーを温める。その想いは、地域に、社会に広がって、
やがて大きな木となり、みんなを温めるはずだから。

どこまでも温める。
やがてみんなを温める。



従業員



働く仲間を、どこまでも想う

働く仲間は、最も身近なステークホルダー。スリーハイは、みんなにとっての居場所となり、安心して力を発揮できる場でありたい。お互いを想い、周りを想う。そんな仲間が集い、成長しつづける場でありたいと考えています。

→ P.16-P.19

地域

地域を、どこまでも想う

「住宅街にある町工場」である私たちは、地域で暮らす人々との信頼関係がなければ、この場所で事業を続けることができません。2013年から、さまざまな活動を通じて、地域との温かい関係を築いています。

→ P.12-P.15

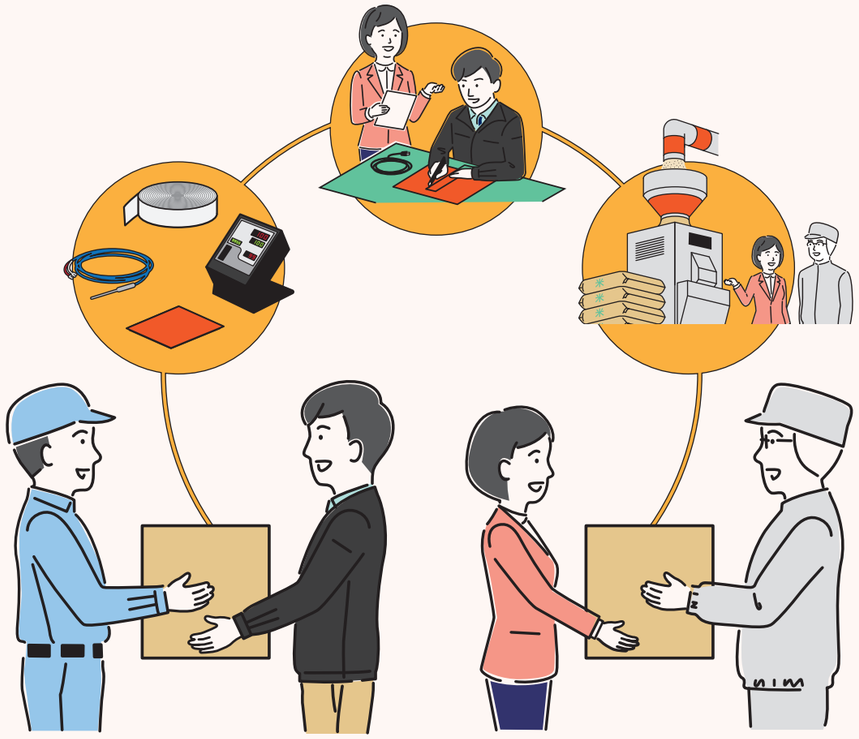
未来　地球

未来を、地球を、どこまでも想う

私たちは「ものづくり」の会社です。大半はオーダーメードで、1個から手作りをしています。そんな「ものづくり」の温かさを、世界に未来に伝えたい。そう願いながら、今日も目の前の「もの」に向き合っています。

→ P.20-P.23

ヒーターづくりに関わる、
皆さまの想いをつなげていく。

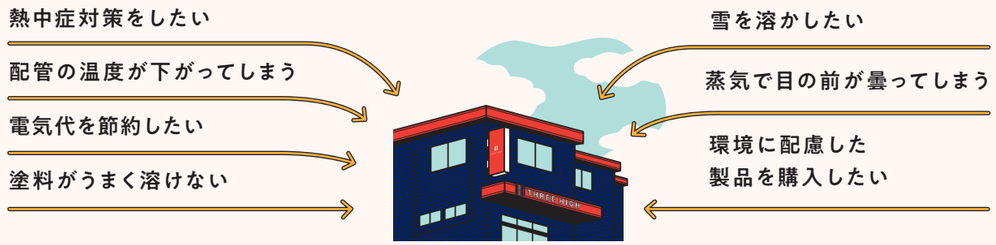


パートナー企業の皆さまとともに、世界中の「熱の困りごと」を解決したい。

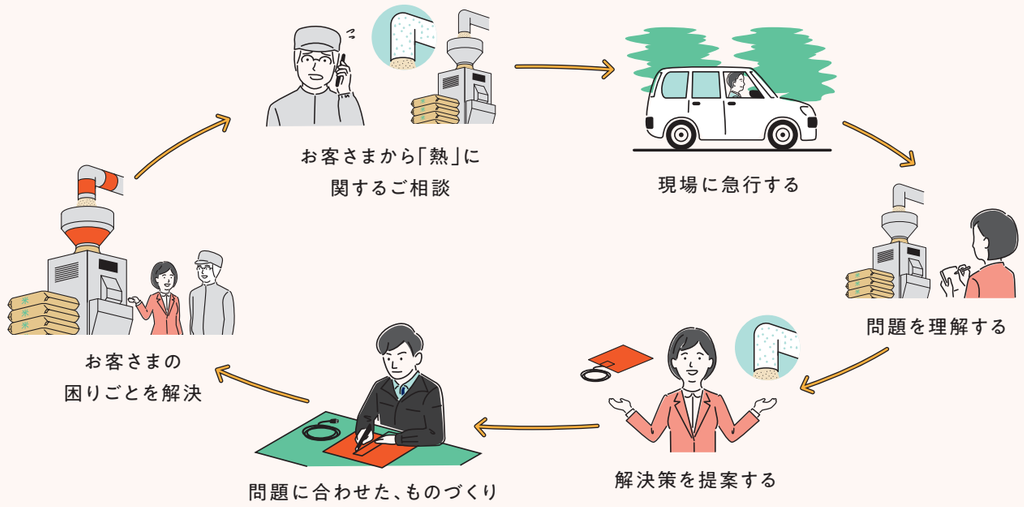
私たちは、熱で困っているお客さまの元に、まず駆けつけ、ともに解決策を考えます。
お客さまの困りごとに、誰よりも早く、誰よりも親身になって応えたい。そして、お客さまの心を温めたい。
「熱で困ったら、スリーハイ」。私たちは、そんな存在になりたいと願っています。

私たちに寄せられる「熱」の困りごと

私たちの元には、さまざまなモノづくりの現場からご相談が寄せられます。中には、ヒーターが解決策になると知らずにご相談される場合も。よくあるご相談の一部をご紹介します。



お客さまを「温める」流れ



お客さまからの声

導入前に、現場での性能評価実験にも同席して、より良い製品をご提案いただいたり、使用方法を教えてもらったりして、大変助かりました。

食品加工業 Oさん

冬場も夏場と同じように稼働でき、一年を通して均一な品質を保てるようになりました。

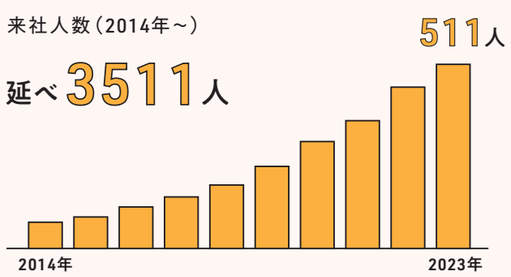
製造業 Mさん

お客さまを想う。
その先に生まれる価値を想う。

まずは、お客さまとの接点をコツコツと増やしていきます。

来社人数（2014年～）

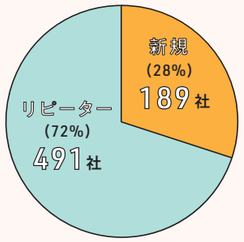
延べ3511人



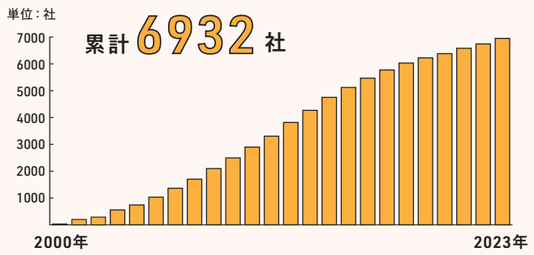
お客さまから相談を受け、解決できる存在になっていきます。

顧客数（2023年）

合計
680社



販売先数（2000年～）



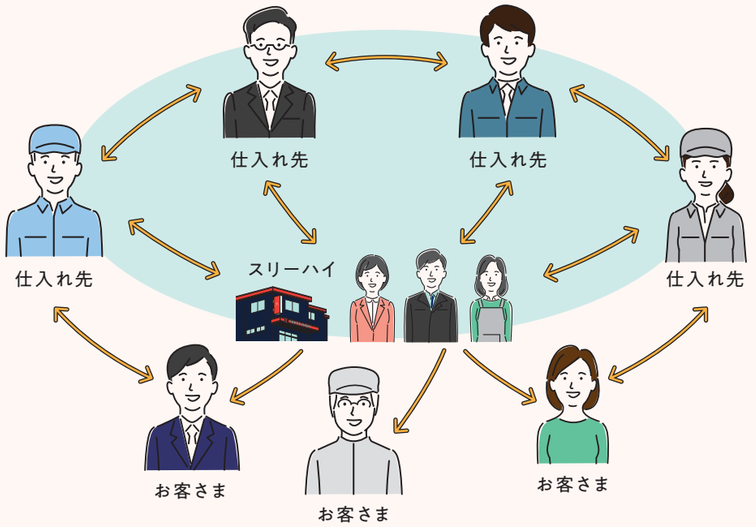
「熱の困りごと」を解決し、さまざまな価値を生み出していきます。

ヒーターを用いた解決策の提案、販売

直接的に生まれる価値	非効率な温め方が不要になる	物が固まりにくくなる	最適な温度を保てる	凍結を防止できる
その先に生まれる価値	生産効率の向上	作業負担の軽減	品質の保持	安全性の保持

仕入れ先は、ともにお客さまを想い、
困りごとを解決する大切なパートナー。

仕入れ先は、お客さまに最高の提案・製品を届けるための大切なパートナーです。スリーハイは、これからもより一層、仕入れ先の皆さまとの関係づくりを大切にしていきます。



2023年、仕入れ先との協力関係強化に向けた新たな取り組みを開始しました。

私たちにとって仕入れ先は大事なパートナーですが、これまで電話越しでしか話したことのない先も少なくありませんでした。
そこで今年から、従来のアンケートに加え、自ら足を運んで仕入れ先を訪問することを始めました。
訪問の目的は、QCDの管理強化だけでなく、現場でいろいろな話をしてお互いのことをよく知り、それによって強い関係性を育んでいくことです。
実際に訪問してみると、私たちが取引先からどう見られているのか、何が求められているのか、さまざまな声を聞くことができました。また同じ製造業として、私たちが学ぶことも多かったです。
始まったばかりで試行錯誤しながらですが、これからも仕入れ先と顔の見える、温かい関係をつくっていきたいです。

新たな取り組み（2023年）

主要な仕入れ先へのアンケート 10社

↓

アンケートに基づく訪問 8社

↓

QCD（品質・コスト・納期）管理強化 ＋ コミュニケーション強化

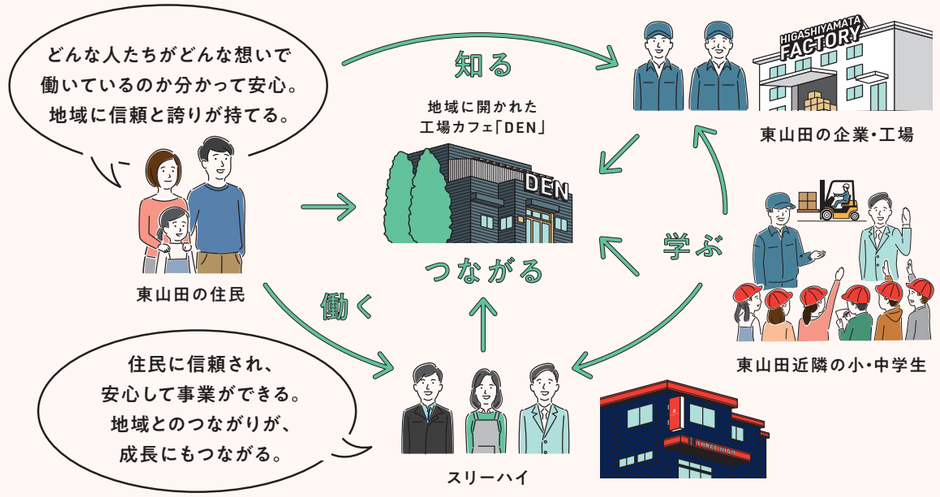
地域に温かさを循環させたい。
それは巡り巡って、
自分たちに戻ってくるものだから。

地域とともに生きる町工場

私たちは、横浜市都筑区東山田の準工業地域にある、小さな町工場です。この地域には、70ほどの工場が集まっています。以前はもっと多かったのですが、廃業や移転などで徐々に減少。工場があった土地には新しい家やマンションが建ち、ここに移り住む人が増えました。
いつしか私たちは「住宅街にある町工場」に。そこでは地域との信頼関係がなければ事業を続けていくことは困難です。だから私たちは「地域とともに生きる」ということに真剣に向き合い、取り組んできました。

準工業地域の一般的な姿

スリーハイが目指す姿



いろいろな接点を持ち、地域の中で共存共栄する

2013年からは毎年、近隣小学校の生徒たちが地域の町工場を訪ね歩く「こどもまち探検」を開催しています。
地域で暮らす人たちが、スリーハイを「働く場」として選んでくれるようにもなりました。
2017年には、地域に開かれた工場カフェ「DEN」をオープン。地域の多様な人や組織をつなぐ拠点としての役割を担いつつあります。
住民からの信頼を得るために続けてきた地道な活動は、いまやスリーハイの大きな資産となっています。
地域に生かされている会社として、温かさが巡り続ける地域の一員であり、起点でありたいと願っています。

スリーハイは、地域をつなぐ役割から、地域の挑戦を応援する役割へと変わりつつあります。

こどもまち探検

地域の子どもたちに、ものづくりの魅力を知ってほしい。この地域で働く大人たちの姿を知ってほしい。そして、自分たちの夢を広げてほしい。そんな想いで、2013年から毎年、東山田地区の小学生を招いて地域の工場を巡る「こどもまち探検」を実施しています。

参加した子どもの数

2023年
73人
2013年以降
延べ **1853人**

実施回数

2023年
2回
延べ
22回

参加している工場の数

2023年
20社
（うち2社を訪問）
2013年開始時 **1社**

成果

地域への愛着や
ものづくりへの関心が高まる

成果

お互いに顔が見える関係、
信頼関係が築かれる

成果

自分たちの仕事への誇りや
やる気が高まる

働く人と暮らす人の間に、温かさが循環する地域に

「こどもまち探検」から発展した活動

ケアプラザ主催こどもまち探検

福祉法人（東山田地域ケアプラザ）と連携し、学校への行きづらさを抱える生徒6人を対象にこどもまち探検を実施しました。

工場カフェ「DEN」

2017年、地域に開かれた工場として「DEN」をオープン。自社の工場の一つであると同時に、お客さまや地域の人たちにとって、ものづくりを間近に見られる場、交流する拠点にもなっています。

2023年の主な活動

“東山田食堂&シェアごはん”1周年記念

DENで毎月開かれている「東山田食堂&シェアごはん」は、地元農家や食品メーカー、飲食店から規格外や廃棄予定の野菜や食品を提供していただき、地元フードコーディネーターのミナさんが作ったお弁当を販売する取り組みです。売り上げの一部は、さまざまな事情で生活に困っている方たちに低価格でお弁当を届けるために使われます。2023年8月には、この取り組みの開始1周年を記念するパーティー「DENナイト」を開催し、生産者・調理スタッフ・地元議員・学生など約30人が集まりました。

特別支援学級の子どもたちの「お仕事体験会」

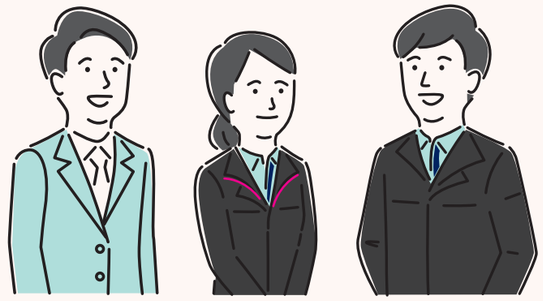
横浜市立北山田小学校の支援学級の子どもたちがDENに訪れ、東山田食堂のお仕事体験をしました。（11・12月各1回各回4人）一人1品のリーダーとなり、調理から盛り付け、箸袋の作製、包装まで協力してお弁当づくりを行いました。本社への配達やお客さまのお迎えなどにもチャレンジし、最後はおうちの方を招いての食事会。自分たちで作ったお弁当を食べてもらっているときの、子どもたちの誇らしい表情が印象的でした。

DEN のこれから

いまやDENは東山田のランドマークとなり、多くの方たちに知ってもらい、出入りしてもらうようになりました。お客さまはもちろん、行政、住民、工場、学校、NPOなど、地域のさまざまな主体とつながれる存在として、これからもっと地域のために「活用される」場になったらうれしいです。

スリーハイは、一人ひとりの活躍を支える職場でありたい。

パートナー企業を想うこと、地域を想うこと、関わるすべての人たちを想うこと。そのためには、まず自分たちが想い合う組織であること。一人ひとりが相手の立場で物事を考え、自分の立場で力を発揮する。そうして、組織として成長していく。スリーハイは、そんな職場でありたいと考えています。



全従業員数

スリーハイの従業員は、13年で約10倍に。パート・アルバイト・嘱託の採用も増え、多様な力がものづくりを支えています。

2000年 4人 ➡ 2010年 13人 ➡ 2023年 42人

社員:17人　パート・アルバイト・嘱託:24人

年齢構成（全社員17人）

スリーハイでは多くの若手が活躍。ものづくりの未来を支える人材を育てています。

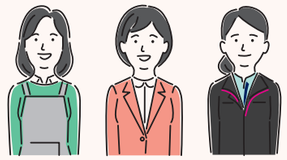
20代 6人　30代 5人

40代 3人　50代 3人

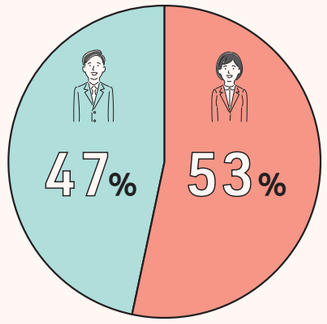
※データはすべて2023年12月末時点。

男女比

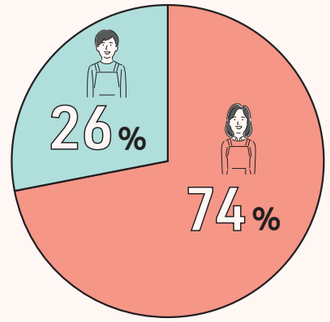
工場の一般的なイメージと異なり、女性も多く活躍しています。そのうち3人がリーダーを務めています。



男女比（全社員）



男女比（全従業員）



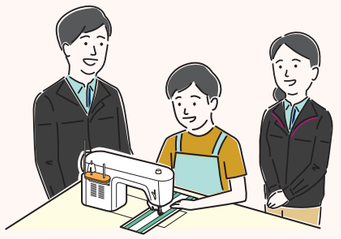
社風

社長でも社員でもパートでも、立場にかかわらず、日々のコミュニケーションを大事にしている組織です。その積み重ねが、一人ひとり、自分の役割を果たしながら周りのことも考えて、みんなで良い仕事をしようという気運につながっているのだと思います。

一人ひとりの“声”が大切にされる会社だなと感じます。誰かが何げなく発した一言でも、それがちゃんと拾われて、改善策につながっていくことがよくあります。トップダウンではなく、それぞれの納得感を大事にする文化もあると感じます。

障がい者 “challenged”

2017年から障がいを持つ方を仲間に迎え、2023年末現在、3人が活躍しています。決して補佐的な業務ではなく、「ミシンが得意」「細かな作業が得意」といった各人の強みを生かして、ものづくりの一翼を担う大事な戦力として活躍しています。



インターン生

2023 年には、桜美林大学・堀潔教授のサポートのもと、オランダの学生 1 人を海外事業部で半年間受け入れました。期間中は、ビジネスマナーや日本語習得、商談同行や展示会での接客などを学ぶとともに、リサーチや翻訳、マーケティング資料の作成など多様な課題に取り組みました。
また、専修大学からも 1 人、夏季インターンシップで受け入れています。

スリーハイでは、4つの側面から組織づくりに取り組んでいます。

★ 2023年に導入したもの

働きやすい環境をつくるための取り組み

全従業員の意識調査の実施から新たな施策へ

前年に引き続き、全従業員を対象に意識調査を実施。調査結果を元に、①働き方改革②福利厚生の見直し③スキルアップ支援④表彰制度導入―の4つの取り組みを実施することを掲げました。

残業時間の削減と売り上げUPで相乗効果

2022年から全員19時退社を促す取り組みを開始しました。

成果　残業時間 前年比 35.8% 削減　1人当たりの 売上高前年比 10.6% 増

社員の声

- 自分の時間や家族との時間が増えた
- 効率的に仕事を進めることやチームで協力することを意識するようになった

これからの組織づくり

2023 年も前年に続いて、「関わる人すべてローガンに掲げています。会社の成長の源生、表彰制度を充実させ、点ではなく、面での人にスリーハイを通じて最高の体験をしてもらおうじゃないか」をスは、従業員の力です。そのためにも従業員のスキルアップ支援、福利厚動ける組織、共に成長を感じられる組織を目指します。

コミュニケーションを円滑にするための取り組み

アニュアルレポート「OMOU」社内共有会

会社が大切にしている想いを詰め込んだ当冊子「OMOU」を元に、代表の男澤が社員に向けて直接その内容を伝える会を、2023年8月から全7回開催しました。従業員が「OMOU」を通じて会社についての理解を深め、みんなが意識を共有することで、社外の方にもスリーハイの「想い」が伝わっていくのだと考えています。

社員の声

- それまでは、自分の見方だけで捉えていたことに気付きました。共有会を通じて、「OMOU」の中の言葉には、スリーハイの「想い」がたくさん詰まっていることを知り、これからは言葉選びにも意識を向けていきたいと思うようになりました。
- 経済性だけでなく社会性を大切にした経営を実行しようとしている社長の想いが伝わりました。

心身の健康を守るための取り組み

- 「健康経営優良法人」の取得★（健康診断・メタボ検診受診率100%）
- 「横浜健康経営認証2023（クラスAA）」認定の取得★
- 「かながわ健康企業宣言」認定の取得★
- 健康管理委員会の設置★
- メンタルヘルス責任者を配置★（メンタルヘルス・マネジメント®検定試験合格者）
- 安全衛生推進者を2人配置
- ハラスメント対策責任者を配置

スキルアップを支援するための取り組み

電気工事士資格取得支援を導入（2023年10月～）

製品をご購入いただいたお客さまから、電気に関することを聞かれることがあります。その時、誰もが同じレベルで、すぐに回答することができるようになったら、お客さまに安心してもらえるだろうという考えから、社員の電気工事士資格を促進。2023年からは受験料に加えて、勉強のための費用を負担したり、勉強時間の一部を就業に見なすなどして支援を拡充しました。

社員の声

- 会社の支援を受けて、資格取得に向けて勉強しているところです。会社のためではありますが、個人としての幅も広がるし、成長意欲も満たされます。資格取得者になれば手当も付きますし。中小企業だと、社員の育成に時間やお金を投じることはそう簡単ではないと思うのでありがたいですね。

「ものづくりの想い」を未来へ、世界へ。

スリーハイの製品は、大半がオーダーメード。1つから丁寧に手作りしています。その「ものづくり」には、物を想い、人を想う、ぬくもりが宿っています。どんなにテクノロジーが発達する未来でも、その大切さはきっと変わらない。スリーハイは「ものづくり」を担う会社として、それを未来に、世界に伝え、残していきたいと考えています。

「ものづくり」を未来へ

地域の小中学校やNPOと連携し、子どもたちに「ものづくり」の魅力を伝え続ける活動をしています。

2023年の主な活動

こどもまち探検

6月	NPO法人コドモノトナリ主催子ども社長塾
10月	横浜市立山田小学校

職業体験

11月	横浜市立東山田中学校（学校訪問）
11月	横浜市立荏田南中学校

職業講話

夢★らくざプロジェクト主催「おしごとなりきり道場」に参画。近隣の中学生を対象に「チョコレート工場に対して最適なヒーターを提案しよう」というロールプレイングゲームを実施しました。

6月	川崎市立南生田中学校
11月	横浜市立中川中学校
12月	横浜市立早渕中学校

高校生向け探究学習のフィールドワーク

2022年度から全国の高校で導入された「総合的な探究の時間」。生徒たちは、横浜の地元企業の取り組みを学び、社会課題の解決策を提案することで、地域活性化を目指します。スリーハイは事例企業の一つとして生徒の視察を受け入れ、働くことや製品づくり、社会への「想い」を生徒たちと共有しました。

日本の「ものづくり」を世界へ

2022年は、タイ・ベトナムで展示会に出るなど、東南アジアでの認知度を上げ、ニーズを把握する一年でした。
2023年は、食品業界を中心に、「熱」で困っているお客さまへの個別訪問を積極的に行いました。国は違えど、国内同様に保温や遮熱のお悩みが多く聞かれ、現場のニーズに合わせてオーダーメードで製品を製造・販売する当社の強みが発揮されました。また、販売代理店や現地メーカーとの連携が進み、お客さまからのご要望に迅速に対応できる体制が整いつつあります。
11月にはタイ・バンコクで開催されたASEAN最大規模の工作機械および金属加工技術展示会「METAREX 2023」に出展。電気代の高騰で電気使用料やコストの削減に関心が高い来場者が多く、国内でも人気の射出成型機用断熱ジャケットは安全性と電力削減効果の高さで注目を集めました。さらに海外向けECサイトでのお問い合わせも増え、17カ国以上の企業さまからご注文頂き、年々販売エリアが拡大しています。
これまで日本国内の「温めたい」というお客さまの現場にすぐに駆け付け、最適な提案をするスタイルで信頼を培ってきた当社の強みを武器に、2024年以降は東南アジアをはじめ、世界中の「温めたい」に迅速に・丁寧に応えられる、グローバルニッチ企業を目指していきます。

輸出国の例

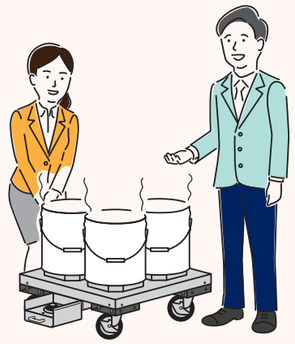
米国・インド・インドネシア・英国・エチオピア・オーストラリア・カンボジア・シンガポール・タイ・台湾・中国・パキスタン・フィリピン・ブラジル・ベトナム・メキシコ・ラオスなど

オランダからのインターン生、海外展開に貢献

2023年2~7月、オランダからの留学生1人がインターンとして海外事業部に参加しました。海外の市場調査や顧客へのアプローチ方法の検討に加わるとともに、社内では交流ランチや英語勉強会を実施するなど、全従業員が海外へ目を向けるきっかけをつくってくれました。

地球環境の未来を守り続けるために。

いまや気候変動への対応は、すべての企業が取り組むべき課題。それは小さな工場でも例外ではありません。地球の資源を使い、ものづくりをする私たちが、地球環境の未来のためにできることを考え、実践していきます。



製造プロセスを通じた取り組み

ヒーターの製造・販売という私たちの事業が、環境に与える負荷。それらをできるだけ抑えるためにできることを考え、取り組んでいます。

温室効果ガス排出削減

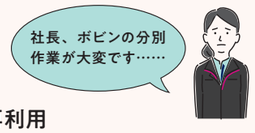
2022年に、3つの工場のうち2カ所の電気を再生エネルギーに切り替え、大幅にCO_2排出量が削減されました。2023年は、3つ目の工場でのヒーター製造作業が増えたことにより排出量が前年比で増加しました。

	2020年	2021年	2022年	2023年
再エネ利用率	0%	0%	99%	96 %
CO_2排出量	18,907 kg	21,717 kg	185 kg	766 kg
前年比	-	+15%	-99%	+314 %

ISO運用強化

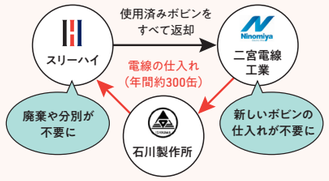
スリーハイはISO9001とISO14001を取得しています。ISOの運用を通じて、品質向上と環境負荷低減の取り組みを強化するため、2023年は内部監査員を3人追加。週に1度、全従業員でマネジメントマニュアルの読み合わせをし、周知徹底を図りました。

廃棄物削減

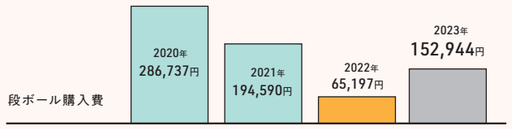


使用済みプラ製ボビンの再利用

2023年5月から、使用済みボビン（電線などを巻く筒）の再利用を開始しました。当社は、月間約25缶（年間約300缶）の電線を、専門商社の石川製作所を通じて電線メーカーの二宮電線工業から仕入れています。これまでは電線を外したボビンは全て廃棄していましたが、その分別に1缶30分以上を要していました。そこで、石川製作所と二宮電線工業に相談を持ち掛け、三社の連携でボビン再利用の仕組みを構築。これにより、廃棄物減少のほか、スリーハイでは廃棄の負担解消、二宮電線工業ではボビンの仕入れコスト削減が実現しました。



段ボールの再利用



2019年から、原材料や資材を受け取る段ボール箱を当社製品の納入に再利用しています。2023年は在庫不足で買い足したため、前年比は増額しました。

製品開発・提案を通じた取り組み

保温カバーを積極的に提案

これまでの課題

- ヒーターに保温カバーを巻いていないため、冬は温度が下がり電気使用量が増加、夏は温度が上がり作業者の熱中症リスクが上昇する問題があった。
- 保温カバーを使用していても、保温力が不十分だったり、一枚品として縫製されているため、1カ所に穴開きや破れが発生すると丸ごと買い替える必要があった。

そこで私たちは

高性能保温カバーを積極的に提案

スリーハイの保温カバーの特長

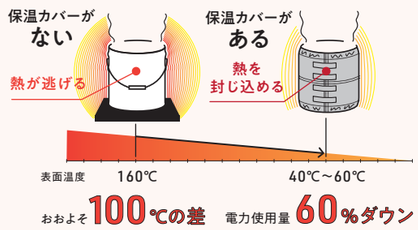
- 3枚構造のため、最も破れやすい内側（インナージャケット）が破れたら、その1枚を交換するだけで使い続けることが可能。
- インナージャケットを追加し、断熱性や遮熱性を上げることも可能。
- アジャスター調節付きのため、幅広い径への対応が可能。

エネルギー消費量削減

廃棄物削減

が見込めます。

断熱効果に関する実験



中小企業のこれからにとって、SDGsは必須のテーマ。

全世界が協力して2030年の達成を目指す「持続可能な開発目標（SDGs）」は、経済・社会の一員である当社にとっても重要な課題です。企業間でSDGsへの意識が高まるにつれて、今後もサプライチェーンの一部であり続けるために。また、人々の社会・環境に対する価値観が変化する中で、次世代に選ばれ続けるために。今後ますます重要なテーマになると捉えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

これまでの取り組み

2019年	全従業員向けSDGs社内勉強会開催
2020年	「かながわSDGsパートナー」登録
2020年	神奈川県「SDGs経営に向けた中小企業伴走型支援事業」採択（SDGs事業計画書及びSDGsアクションプランの作成）
2021年	横浜市SDGs認証制度「Y-SDGs（上位Superior）」に認定
2022年	サステナビリティレポート発刊
2023年	「OMOU2022」発行

当社のSDGs達成貢献に向けた取り組み

ステークホルダー（関係者）	アクティビティ（活動）	アウトカム（効果）	ゴール（目指す状態）
パートナー企業	徹底したお客さま目線での課題発見と独自提案	「熱」の問題解決によりものづくり現場に付加価値を生む	顧客に支持され続けている
	国際基準に適合した品質・環境マネジメント	ものづくり企業として、より良い地球環境を次世代に残す	品質・環境マネジメントが継続的に改善されている
地域	地域課題の解決拠点としての工場カフェ「DEN」の活用	地域住民と企業が、お互いに安心して暮らせる／働ける環境を築く	「DEN」が地域の人のチャレンジの場として活用され続けている
	次世代を担う若者向けの取り組み	次世代の若者たちに、ものづくりの魅力や働く楽しさを伝える	次世代の若者たちに価値が届けられている
従業員	女性も活躍できる環境整備	女性の視点が会社経営に生かされる	女性が意思決定の場に参画している
	地域住民の積極的な採用	職住近接によりワーク・ライフ・バランスが向上する	地域に雇用を提供できている

進捗モニタリング					貢献するSDGs（ゴール／ターゲット）
指標	目標（2030 年）	2022 年	2023 年	判定	
「熱」の問題解決量 - 売上高 - 出荷数	8億円 80,000台	3.75億円 39,080台	4.4億円 33,452台	○	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 9.1
顧客満足度	※現在、継続的な収集に向けて試行中			―	
ISO9001及びISO14001の認証維持	維持している	維持している	維持している	○	12 つくる責任 つかう責任 12.4
地域による「DEN」の活用状況	地域の人たちに活用され続けている	「東山田食堂」や「プログラミング講座」の開始	「東山田食堂」や「プログラミング講座」の発展的継続	○	11 住み続けられるまちづくりを
地域からのプログラム等の依頼状況	地域から求められ続けている	まち探検:2回 小学校:0校 中学校:3校 高校:1校 大学:3校	まち探検:2回 小学校:1校 中学校:6校 高校:5校 大学:2校	○	4 質の高い教育をみんなに 4.4
全従業員の女性比率 ※今後、指標の追加を検討。	50%程度	72%	74%	○	5 ジェンダー平等を実現しよう 5.5
従業員の地域住民比率	30%以上	68%（横浜市） 52%（都筑区）	69%（横浜市） 52%（都筑区）	○	8 働きがいも経済成長も

価値創造プロセス

事業とは、社会から多様な価値を取り入れ、さらに価値あるものにして社会に還元していくこと。この「価値の循環」にこそ、私たちが社会に存在している理由があると考えています。社会の一員として私たちはどうあるべきか。この視点を常に持って、経営を続けていきます。

外部環境

- 日本の“ものづくり力”の低下（技術流出、産業空洞化）
- 予測困難で変化の激しい時代
- 情報公開・透明性が重視される社会

インプット

財務資本
資本力の増強
（1000万円増資）

製造資本
製造拠点の拡大
（第3工場の移設拡大で生産力向上）

知的資本
あらゆる「熱の困りごと」への提案・解決ノウハウ
（顧客数680社）

人的資本
「温める」をつくり続ける従業員
（42人）

社会・関係資本
すべての関係者との協力関係
（ステークホルダー経営の実践）

自然資本
電気、資材
（CO_2排出量766kg）

リスク

- 仕入れのリスク（価格高騰、材料不足）
- 人材のリスク（中小企業の人手不足）
- 市場のリスク（国内市場の縮小、飽和）

戦略

- 二次加工からの脱却
- 情報発信の強化
- DX化、発信強化を支える人材確保
- 海外展開

事業活動

お客さまのあらゆる「熱の困りごと」への提案

アウトプット

- 産業用ヒーターの製造・販売
- ヒーターに限らない解決策の開発・提供

アウトカム

- 高付加価値な“ものづくり”の体現 → 日本の“ものづくり力”の再興
- 世界に知られるグローバルニッチトップ企業 → 日本の“ものづくり力”の再興
- 世界中の「熱の困りごと」が解決される → 世界中に温かさが広がる

組織

「予測困難な時代」を生き抜く、柔軟でしなやかな組織

経営理念（ミッション）
ものを想う。
ひとを想う。

ビジョン
世界中の「温めたい」に応えていく。

バリュー
「温める」をつくること。

アウトプット

財務資本
新たな資本とのつながり
（資金調達手段の広がり）

製造資本
強い“ものづくり”を支える製造資本の増強

知的資本
“ものづくり”の高付加価値化

人的資本
付加価値の高い“ものづくり”を担う人材

社会・関係資本
準工業地域の新しいモデル

自然資本
CO_2排出・廃棄物
（→削減努力）

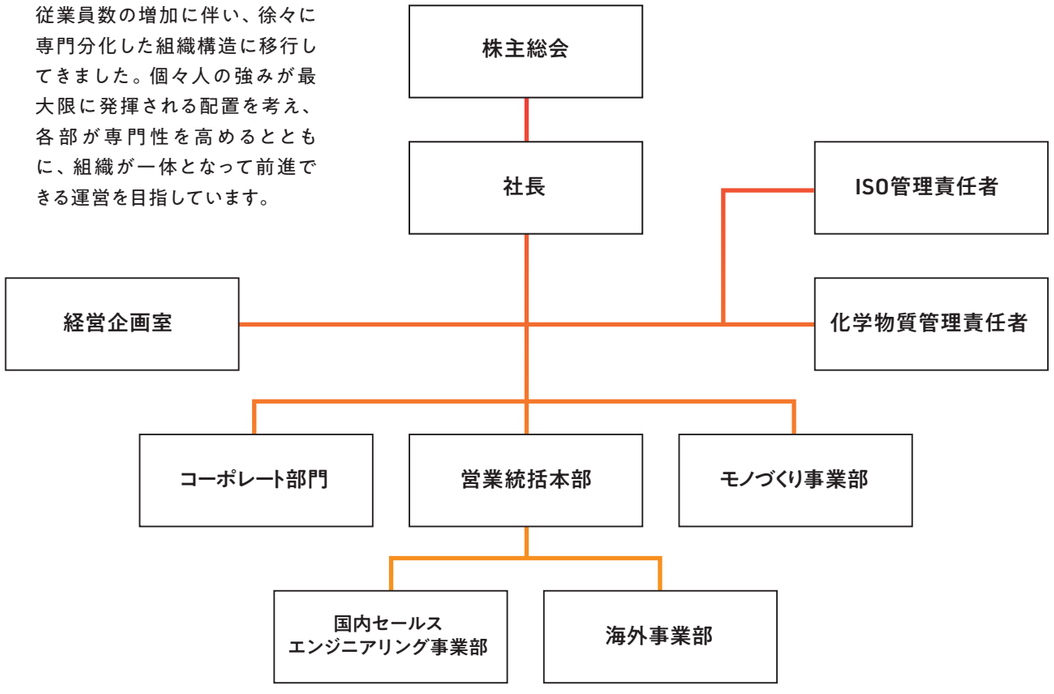
参考ガイドライン：「国際統合報告<IR>フレームワーク」を参考にしています。

会社概要

商号	株式会社スリーハイ
創業	1987年
設立	1990年
資本金	3000万円
代表取締役	男澤 誠
事業内容	産業用電気ヒーターの製造・販売
取引銀行	三井住友銀行 溝ノ口支店　きらぼし銀行 中山支店 横浜信用金庫 高田支店　川崎信用金庫 有馬支店
所在地	（本社、第2工場、第3工場） 本社:〒224-0023 神奈川県横浜市都筑区東山田 4-42-16 TEL:045-590-5561 FAX:045-590-5571
従業員数	42人（2023年12月末時点）

組織体制

従業員数の増加に伴い、徐々に専門分化した組織構造に移行してきました。個々人の強みが最大限に発揮される配置を考え、各部が専門性を高めるとともに、組織が一体となって前進できる運営を目指しています。



沿革

1987年	創業者（先代）が個人事業主として川崎市で創業 ヒーターの製造販売開始
1990年	神奈川県川崎市に株式会社スリーハイ・本社を設立
1997年	・ペール缶、一斗缶ヒーター「K-11」を発表　・ドラム缶ヒーター「K-21」を発表 ・ドラム缶ヒーター「K-22」を発表　・4.6リットル缶ヒーター「K-31」を発表 ・デジタル温度コントローラ「THC-15」を発表
2001年	「シリコンスポンジ」取り扱い開始
2002年	・「リボンヒーター（テープヒーター）」を発表　・「シリコンコードヒーター」を発表　・「シリコンベルトヒーター」を発表
2003年	・「ボンベヒーター」を発表　・ペール缶、一斗缶ヒーター「K-11W」を発表　・ドラム缶ヒーター「K-21W」を発表 ・ドラム缶ヒーター「K-22W」を発表　・ミニ缶ヒーター「K-31W」を発表
2004年	本社を現在地（横浜市都筑区東山田）に移転
2005年	ISO14001取得
2007年	ISO9001取得
2009年	代表取締役に男澤誠が就任
2010年	・温度コントローラ「monoOne-100/100T」を発表　・「横浜型地域貢献企業」に認定 ・メイドインつづき認定企業　・文部科学省キャリアガイダンスに参画
2011年	・「神奈川県優良工場表彰」を受賞　・温度コントローラ「monoOne-200」を発表　・「横浜知財みらい企業」に認定
2012年	・セメンティングスポットヒーター「MASANORI」を発表 ・PSE対応型ドラム缶ヒーター「K-21W-PSE」を発表 ・PSE対応型ペール缶、一斗缶ヒーター「K-11W-PSE」を発表 ・温度コントローラ「monoOne-120/120T」を発表
2013年	温度コントローラ「monoOne+（モノワンプラス）」を発表
2014年	・「かながわ中小企業モデル工場」に認定　・「第8回かながわ子ども・子育て支援大賞特別賞」を受賞
2017年	・業務拡大につき第2工場 カフェ&ファクトリーDENをオープン ・「かながわ中小企業モデル工場」に認定　・「神奈川がんばる企業エース2017」に認定 ・一斗缶、ペール缶用底面ヒーター「GOEMON-100」を発表
2018年	「横浜型地域貢献企業プレミアム企業」に認定
2020年	・「かながわSDGsパートナー」に認定 ・内閣府特命担当大臣表彰「子供と家族・若者応援団表彰（子供・若者育成支援部門）」を受賞 ・温度コントローラ「monoOne+B」「monoOne+W」を発表 ・「WANIヒーター」を発表 ・「ヌカ玉バスター」を発表
2021年	横浜市SDGs認証制度「Y-SDGs（上位Superior）」に認定
2022年	・資本金を2000万円に増資 ・「健康経営優良法人2022（中小規模法人部門）」に認定 ・「神奈川がんばる企業エース2022」に認定
2023年	・資本金を3000万円に増資 ・「健康経営優良法人2023（中小規模法人部門）」に認定 ・「横浜健康経営認証2023（クラスAA）」に認定

2023年9月30日現在

<資産の部>		<負債の部>	
科　目	金　額	科　目	金　額
単位	円	単位	円
【流動資産】		【流動負債】	
現金及び預金	239,255,403	買掛金	11,634,169
受取手形	13,734,604	未払費用	11,910,861
売掛金	54,837,669	未払金	977,994
たな卸資産	292,948	未払法人税等	11,100,300
仕掛品及び半成工事		未払消費税等	8,100,000
仕掛品	292,948	預り金	1,857,302
前払金	2,136,500	短期借入金	50,000,000
貸倒引当金	▲502,758	流動負債	95,580,626
材料	37,232,866		
流動資産	346,987,232	【固定負債】	
		長期借入金	
【固定資産】		長期借入金	218,666,000
有形固定資産		固定負債	218,666,000
土地	58,200,000		
建物	4,296,096	<負債>	314,246,626
建物附属設備	857,576		
機械装置	1,247,773	<純資産の部>	
工具器具備品	1,678,382	【株主資本】	
有形固定資産	66,279,827	資本金	30,000,000
無形固定資産		利益剰余金	
ソフトウエア	4,269,210	利益準備金	2,500,000
電話加入権	74,984	その他利益剰余金	
無形固定資産	4,344,194	繰越利益剰余金	87,847,668
投資その他の資産		その他利益剰余金	87,847,668
出資金		利益剰余金	90,347,668
出資金	2,020,000	株主資本	120,347,668
長期前払費用	586,112		
差入保証金	50,500	<純資産>	120,347,668
敷金	1,450,000		
積立保険金	12,876,429		
投資その他の資産	16,983,041		
固定資産	87,607,062		
<資産>	434,594,294	<負債純資産>	434,594,294

一人ひとりの変化が、組織の利益に反映された一年でした。

前期（2022年9月期）は、借入金を一部返済したために、現預金が月商1カ月分弱となっていました。その際、金融機関との対話の中で、現金が不足するのは危険なこと、むやみに自己資本比率を上げる必要はないこと、このような財務管理は避けるべきであることの3点を学びました。
今期（2023年9月期）は、これまでの業績が評価されたことと、繰越利益剰余金の増加が見込まれたことから、東京中小企業投資育成株式会社様に資本を入れていただくこととなり、資本金が3000万円に増えました。また、利益が拡大し、現預金を膨らますことができたことを大変うれしく思います。これこそ従業員一人ひとりの力が合わさった結果です。夏に大阪から講師（中小企業診断士）をお招きし「会社のお金の流れ」に関する勉強会を全員参加で開催したことが一つの大きな要因になったと感じています。
現預金は月商の3～5カ月程度、あるいは固定費の6カ月程度（業界による）と言われているため、引き続き現状を維持しつつ、来期には実質無借金経営を目指します。

株式会社スリーハイ 代表取締役 男澤 誠

会社法では、中小企業であっても、貸借対照表の要旨（全部で15項目程度）の開示が最低限の情報開示として義務化されています。しかし、実態としては、中小企業の多くは外部に財務内容を開示していません。前年度に引き続き、スリーハイが貸借対照表の全項目の公開を継続していることは、それ自体が、従業員や取引先、金融機関はもとより、地域や社会全体に対して、自らの責任を果たそうという覚悟の表れだと考えることができます。

今期の財務活動で、注目すべき点は二つです。一つ目は、原材料費の高騰など厳しい経営環境にあったと推定されますが、事業の伸長により今期も増収となり（3ページ参照）、繰越利益剰余金の増加が継続したことです。二つ目は、これまでの業績や今後の収益見通しが評価され、資本金3000万円への増資が実現したことです。前年度に続き増資が実現したことで、海外展開も含め、当面の事業成長のための財務的な準備が整ったと言えるでしょう。

PROFILE

依田真美

相模女子大学大学院 社会起業研究科 教授
株式会社コンコルディア・フィナンシャルグループ 取締役（社外）
株式会社横浜銀行 取締役（非業務執行）
外資系金融機関で日本の産業・企業分析を担当後、スタンダード&プアーズにて事業会社・公的部門格付部部長、証券化本部長などを歴任。その後、地域活性化に携わるため北海道大学大学院に進学。日本証券アナリスト協会認定アナリスト。MIT スローン経営大学院修了、修士（経営学）。北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院修了、博士（観光学）。

2023年に認定 **横浜健康経営認証 2023（クラス AA）**

横浜健康経営認証とは、従業員等の健康保持・増進の取り組みが、将来的に企業の収益性等を高める投資であると捉え、従業員の健康づくりを経営的な視点から考え、戦略的に実践する「健康経営®」に取り組む事業所を、横浜健康経営認証事業所として横浜市が認証している制度です。スリーハイは【クラスAA】の認証を受けています。

※「健康経営®」はNPO法人健康経営研究会の登録商標です。

2023年に認定 **かながわ健康企業宣言**

かながわ健康企業宣言とは、従業員の健康管理や健康づくりを「投資」と捉え積極的に取り組む企業に対し、協会けんぽ神奈川支部が事業として行う「健康経営®」をサポートする仕組みです。

継続 **健康経営優良法人2023（中小規模法人部門）**

継続 **横浜型地域貢献企業（最上位認定）**

継続 **かながわ治療と仕事の両立推進企業**

継続 **横浜市SDGs認証制度「Y-SDGs（上位 Superior）」**

継続 **横浜知財みらい企業**

継続 **かながわSDGsパートナー**

継続 **かながわ中小企業モデル工場**

リスクマネジメント

スリーハイでは、事業の中長期的な継続を目指し、想定されるリスクへの対策を立て、損益の回避または低減を図る取り組みを行っています。

主な取り組み

セカンドサプライヤーの選定	緊急避難訓練の実施
BCP マニュアルの作成・啓発	AED の導入
BCP 検討委員会の定期開催	サイバーテロ講習の実施
緊急時対応マニュアルを全従業員に配布	法令勉強会の開催（知的財産権・下請法）

「OMOU2023」は、スリーハイが前年度に積み上げた活動内容とプロセスをステークホルダーへの理解を促進するために、数値・文章・イラストを用いて、大変わかりやすく工夫されたアニュアルレポートになっています。加えて、前年度の第三者コメントで推奨させていただいた事項においても、しっかりと受け止め、ご対応いただくことで、3年目となる本レポートが、内容的にも着実に進化していることを高く評価します。

寺本明輝
リエゾンアシストラボ代表
神奈川大学非常勤講師
中小企業診断士

［今回の取り組みで高く評価できる点］

・新規顧客数、輸出国数の実績が立証する「新たな顧客の獲得」、継続的な地域活動による「ブランドの向上」、それらの成果として、「過去最高の売上高」を更新した実績から企業価値が確実に向上していることが評価できます。
・SDGsの活動進捗を測るKPIを全て達成していることから、その成果により社会価値も高まっていることが読み取れます。

このように、中小企業であっても、企業の競争力向上と社会課題の解決を同軸で実現していくことで、CSV（共通価値）を向上させた成果は刮目（かつもく）に値するものです。

［取り組みの進捗を評価しつつ、今後にさらに期待したい点］

・2030年の中期目標を既に達成している活動もあることから（もちろん、その維持は大切なことですが……）、今後、更なるチャレンジを伴う目標設定を期待します。
・その際、自社の中長期戦略に基づく重要度とステークホルダーからの期待要請度の2つの観点から重要課題（マテリアリティ）を抽出し、目標を設定することで、事業とSDGs活動の融合が、より実効性を高めるものと考えます。

このレポートを通じて、スリーハイの「直にして温かい」企業風土を感じ取ることができました。この企業風土こそが更なる価値創造の大きな力になるものと確信しています。

本報告書は、スリーハイがはじめてレポートを作成し発行してから3作目となるものである。中小企業は事業規模に対して人員が少ないものである。通常業務を行いながら、レポート作成に継続的に取り組むことは困難である。しかし、スリーハイは、通常業務とレポート作成を両立している。COVID-19の影響がなくなってきていること、原油価格の上昇等といった事業環境の変化もあるが、売上が増加し従業員数も増えていることは、レポート作成発行作業を企業価値創造の視点から事業評価を行うためのツールとして位置付けていることも一因であることが本レポートから伝わってくる。前回から、財務諸表を公開し統合思考にもとづいた報告をしている成果の一つでもある。さらに、レポートに価値創造プロセスを明記することにより、自社の従業員が経営理念、ビジョン、バリューへの理解を深めることになるとともに、ステークホルダーに企業としての立場を宣言し約束するものとなっている。

鶴田佳史
大東文化大学
社会学部社会学科教授

売上増加にともない販路を拡大し、組織としても変化する時期である。スリーハイでは、働きやすい環境をつくる、心身の健康を守る、コミュニケーションを円滑にする、スキルアップを支援するという4つの側面から組織づくりを行う旨を提示し取り組むことで「一人ひとりの活躍を支える職場でありたい」を実現し、社名の由来の一つである「もの・ひとを温めることができる人間味溢れるスタッフ」の育成を実践していることも企業の姿勢を明確に表しているといえる。サプライチェーンにおける人権への対応は今後さまざまな産業において重要となる。サプライチェーンを構成する企業として、人権に関わる情報を把握し、適宜公開することが必要とされるだろう。「ひと」を大事にするスリーハイが中小企業でありながら、この課題にどのように取り組むのか、期待している。

本レポートからは、社会価値と企業価値を両立しようと真摯に企業経営に取り組むスリーハイの本気を強く感じる。